

結末〔要約〕

黙示録 22 : 12 ~ 21

- 12 「見よ。わたしはすぐに来る。わたしはそれぞれのしわざに応じて報いるために、わたしの報いを携えて来る。
- 13 わたしはアルファであり、オメガである。最初であり、最後である。初めであり、終わりである。」
- 14 自分の着物を洗って、いのちの木の実を食べる権利を与えられ、門を通過して都に入れるようになる者は、幸いである。
- 15 犬ども、魔術を行う者、不品行の者、人殺し、偶像を拝む者、好んで偽りを行う者はみな、外に出される。
- 16 「わたし、イエスは御使いを遣わして、諸教会について、これらのことをあなたがたにあかした。わたしはダビデの根、また子孫、輝く明けの明星である。」
- 17 御霊も花嫁も言う。「来てください。」これを聞く者は、「来てください」と言いなさい。渇く者は来なさい。いのちの水がほしい者は、それをただで受けなさい。
- 18 私は、この書の預言のことばを聞くすべての者にあかす。もし、これにつけ加える者があれば、神はこの書に書いてある災害をその人に加えられる。
- 19 また、この預言の書のことばを少しでも取り除く者があれば、神は、この書に書いてあるいのちの木と聖なる都から、その人の受ける分を取り除かれる。
- 20 これらのことをあかしする方がこう言われる。「しかり。わたしはすぐに来る。」アーメン。主イエスよ、来てください。
- 21 主イエスの恵みがすべての者とともにあるように。アーメン。”

黙示録の預言は必ず実現する。

(A) 再臨の希望

黙示録 22:6 御使いはまた私に、「これらのことばは、信ずべきものであり、真実なものです。」と言った。預言者たちのたましいの神である主は、その御使いを遣わし、すぐに起こるべき事を、そのしもべたちに示すこととされたのである。

ヨハネが書いてきたものは、信ずべきものであり、真実です。

「すぐに起こるべきこと」=「キリストの再臨」「千年王国」「新天新地」

黙示録 22:7 「見よ。わたしはすぐに来る。この書の預言のことばを堅く守る者は、幸いである。」

「堅く守る」=「堅く信じる」

聖書はイエス・キリストを信じるだけで救われると言っていますが、世の人は信じるのが怖いのです。創世記 2:17 しかし、善悪の知識の木からは取って食べてはならない。それを取って食べるその時、あなたは必ず死ぬ。」

しかしアダムとエバは、サタンの誘惑に負けてサタンの言葉を信じたのです。「信じる」と言っても、神様の言葉を信じるのか、サタンの言葉を信じるのか、この判断がとても重要なのです。第2次世界大戦の時、日本国民は天皇陛下を神様と信じて、若者は戦争に行き多くの若者は戦死しました。またオーム真理教は、サリン事件で多くの人を殺しました。だから、多くの人は信じるのが怖いのです。

(B) ヨハネによる礼拝

黙示録 22:8 これらのことを聞き、また見たのは私ヨハネである。私が聞き、また見たとき、それらのことを示してくれた御使いの足もとに、ひれ伏して拝もうとした。

ヨハネは天使から聞いて天使を拝もうとした。

黙示録 22:9 すると、彼は私に言った。「やめなさい。私は、あなたや、あなたの兄弟である預言者たちや、この書のことばを堅く守る人々と同じしもべです。神を拝みなさい。」

天使はヨハネに言った「やめてください」・・とは、「神様を拝みなさい。」と言う事。

神様以外を拝むことは、偶像礼拝です。マリヤ礼拝、聖人礼拝は偶像礼拝です。

(C) この書の預言を宣告せよ

黙示録 22:10 また、彼は私に言った。「この書の預言のことばを封じてはいけない。時が近づいているからである。」

黙示録 22:11 不正を行なう者はますます不正を行ない、汚れた者はますます汚れを行ないなさい。正しい者はいよいよ正しいことを行ない、聖徒はいよいよ聖なるものとされなさい。」

黙示録の預言の言葉を封じてはいけない。

私は「キリストの預言」というトラクトを作らせて頂きました。読んでみてください。

(D) 報いの確実性

黙示録 22:12 「見よ。わたしはすぐに来る。わたしはそれぞれのしわざに応じて報いるために、わたしの報いを携えて来る。」

白い御座の裁き・・キリストの裁きは確実です。

Ⅱコリント 5:10 なせなら、私たちはみな、キリストのさばきの座に現われて、善であれ悪であれ、各自その肉体にあってした行為に応じて報いを受けることになるからです。

(E) 永遠のキリスト

黙示録 22:13 わたしはアルファであり、オメガである。最初であり、最後である。初めてあり、終わりで

ある。」
黙示録 22:14 自分の着物を洗って、いのちの木の実を食べる権利を与えられ、門を通過して都にはいれるよ

うになる者は、幸いである。

「わたし」＝「キリスト」＝「全能の神」
福音を信じる者は罪が赦され、命の木の実を食べる権利が与えられる。

Iペテロ 1:18 ご承知のように、あなたがたが先祖から伝わったむなしき生き方から贖い出されたのは、銀

や金のような朽ちる物にはよらず、

Iペテロ 1:19 傷もなく汚れもない小羊のようなキリストの、尊い血によったのです。
多くの宗教の開祖は、立派なことをしてみんなからほめられたり、しかしイエス様は罪を知らない方なのに、ご自分を罪あるものとされ、私達が受けなければならない神様の裁きを、身代わりとして受けてくださり、三日目に死人の中から蘇られたのです。このイエス様を信じるだけで、新しい命が与えられるのです。

黙示録 22:15 犬ども、魔術を行なう者、不品行の者、人殺し、偶像を拝む者、好んで偽りを行なう者はみ

な、外に出される。

福音を信じていない人は外に出される。神様は正義の神様です。「外」＝「燃える火の池」

黙示録 22:16 「わたし、イエスは御使いを遣わして、諸教会について、これらのことをあなたがたにあかし

した。わたしはダビデの根、また子孫、輝く明けの明星である。」

「あかし」＝「預言」「ダビデの根」＝「ダビデの子孫」「輝く明けの明星」＝「神様」

(F) 御霊と花嫁による招き

黙示録 22:17 御霊も花嫁も言う。「来てください。」これを聞く者は、「来てください。」と言いなさい。渴

く者は来なさい。いのちの水がほしい者は、それをただ受けなさい。

「御霊と花嫁」＝「聖霊と教会」・・聖霊様が招いておられます、使徒の働きでは多くの人が聖霊の働きに

よってキリストを信じました。私達も使徒の働きに倣って、聖霊の働きを信じなければなりません。

「御霊に満たされなさい」聖霊は神様ですから、聖霊様と交わることによって聖霊様の影響を受けます。

IIコリント 13:13 主イエス・キリストの恵み、神の愛、聖霊の交わりが、あなたがたすべてとともにあり

ますように。

聖霊様と毎日交わらなければ、聖霊様の影響を受けることはできません。

ローマ 8:26 御霊も同じようにして、弱い私たちを助けてくださいます。私たちは、どのように祈ったらよ

いかわからないのですが、御霊ご自身が、言いようもない深いうめきによって、私たちのためにとりなして

くださいます。

私は毎日、「私たち」の所に自分の名前を入れて祈っています。また家内の名前を入れて祈っています。

私の祈りのノートに皆さんの名前を入れて祈っています。

(G) 最後の警告

黙示録 22:18 私は、この書の預言のことばを聞くすべての者にあかしする。もし、これにつけ加える者が

あれば、神はこの書に書いてある災害をその人に加えられる。

黙示録 22:19 また、この預言の書のことばを少しでも取り除く者があれば、神は、この書に書いてあるい

のちの木と聖なる都から、その人の受ける分を取り除かれる。

預言に付け加えるようなことをしてはいけない。預言から何かを取り除いてはいけない。憲法でも時代に

合わないとき書き換えます。「時代がいくら変わっても書き変えるな」と命令出来るお方は神様だけです。

(H) 祝祷

黙示録 22:20 これらのことをあかしする方がこう言われる。「しかり。わたしはすぐに来る。」アーメン。

主イエスよ、来てください。

黙示録 22:21 主イエスの恵みがすべての者とともにあるように。アーメン。

神様が言われる。わたしはすぐに来る。・・「来てください」＝「マラナタ」

「恵み」とは、絶対受けることの出来ない者が無代価で受けるのもの。

エペソ 2:8 あなたがたは、恵みのゆえに、信仰によって救われたのです。それは、自分自身から出たこと

ではなく、神からの賜物です。

イエス様を信じるだけでいただける物＝恵

結論

黙示録 3:11 わたしは、すぐに来る。あなたの冠をだれにも奪われないように、あなたの持っているものを

しっかりと持っていなさい。

黙示録 22:7 「見よ。わたしはすぐに来る。この書の預言のことばを堅く守る者は、幸いである。」

黙示録 22:12 「見よ。わたしはすぐに来る。わたしはそれぞれのしわざに応じて報いるために、わたしの報

いを携えて来る。

黙示録 22:20 これらのことをあかしする方がこう言われる。「しかり。わたしはすぐに来る。」アーメン。

主イエスよ、来てください。

私たちは、イエス様が私たちの罪の身代わりとして十字架で死んでくださり、三日目に死人の中から蘇った

ことを信じるだけで救われます。福音を宣べ伝えるためには「御霊に満たされなければ」できません。御

霊に満たされるためには、毎日、聖霊様と交わらなければできません。聖霊様と交わる方法は、

ローマ 8:26 御霊も同じようにして、弱い私たちを助けてくださいます。私たちは、どのように祈ったらよ

いかわからないのですが、御霊ご自身が、言いようもない深いうめきによって、私たちのためにとりなして

くださいます。

「私たち」のところに自分の名前、家族の名前、教会員の名前を入れて祈れば良いのです。